

特別展

発掘された日本列島 2022

令和
4年

9月17日(土)~
10月23日(日)

地域展

毛利総七郎・遠藤源七の 考古コレクション

—明治・大正・昭和戦前期の発掘と蒐集—



昭和4年沼津貝塚発掘



昭和7年建設 石巻考古館



毛利・遠藤共同管理の埴輪

ARCHAEOLOGICAL COLLECTION

令和
4年

9月17日(土)~
11月6日(日)

主催 石巻市博物館
後援 東北大学大学院文学研究科
会場 石巻市博物館常設展示室内 毛利コレクション展示室ほか
開館時間 午前9時~午後5時(最終入館 午後4時半)
休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)
観覧料 常設展観覧料 一般300円 高校生200円 小中学生100円
特別展・常設展共通観覧の場合
一般600円 高校生400円 小中学生200円



石巻市
博物館

ISHINOMAKI
CITY MUSEUM

〒986-0032
宮城県石巻市開成1-8
(マルホンまさあーとテラス内)

問合せ: 石巻市博物館学芸係
☎0225-98-4831
<https://makiart.jp/museum/>



※今後の新型コロナウイルス感染症拡大の状況によっては、日程の変更等が生じる場合があります。詳しくは石巻市博物館の情報をご確認ください。

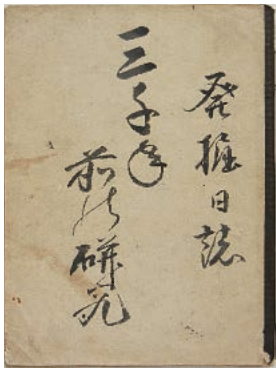
—— 屈指の大コレクションは、如何に形成されたのか ——

アイヌ民族資料や古鏡、古文書、マッチラベルなど、10万点を超える「毛利コレクション」。このうち考古資料群は、明治から昭和初期にかけて、毛利総七郎と遠藤源七が石巻周辺の遺跡の発掘調査を行い、精力的な蒐集活動によって築き上げたものです。彼らが共同管理した考古資料群は、毛利家に建てられた「石巻考古館」に展示され、地域の人のみならず、遠方から研究者や著名人が来石し、人々の好奇心を満たすとともに、それらを対象に据えた研究成果も蓄積されました。

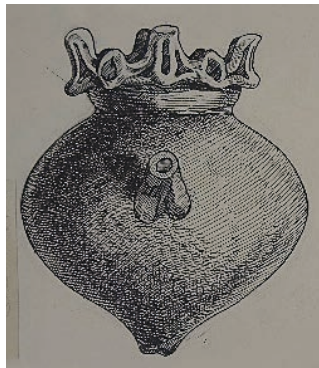
毛利コレクションの醍醐味は、当時の発掘日誌や写真、3,000通を超える毛利・遠藤宛書簡が現存し、当時の時代背景や研究者・同志との交流の実態を窺い知ることができる点にあります。本地域展では、彼らが発掘した考古資料、全国から集めた優品を、発掘日誌・写真・書簡等と併せて展示することで、同コレクションの形成過程の一端をご紹介します。



大正11年 小野川下り響貝塚出土人骨
(東北帝国大学 松本彦七郎へ寄贈)



明治42年 沼津貝塚発掘日誌



杉山寿栄男『注口土器集』(私家版)より



南境貝塚(石巻市)出土壺形土器



日光山古墳(大崎市)出土四獣形鏡

里帰り —— 東北大学蔵「陸前沼津貝塚出土品」 ——

彼らが共同管理してきた沼津貝塚出土品のうち2,219点は、遠藤死後、東北大学に移管されました。このうち473点が昭和38年(1963年)国指定重要文化財に指定されています。地域展では、東北大学蔵「沼津貝塚出土品」から、土器・土偶・岩版・骨角器など100余点を展示します。



骨角製装身具(東北大学考古学研究室提供 菊地美紀撮影)

主な展示資料 東北大学蔵 陸前沼津貝塚出土品(重要文化財含む)

当館蔵 中津山網場貝塚(登米市)出土 岩版(重要文化財)、アイヌ資料 鋸(石巻市指定有形文化財)、南境貝塚(石巻市)出土遺物、小野川下り響貝塚(東松島市)出土遺物、日光山古墳(大崎市)出土四獣形鏡、益藤郡城之腰村(静岡県焼津市)出土 広形銅矛、群馬県出土 埴輪、杉山寿栄男『注口土器集』(私家版)、『陸前沼津貝塚骨角器図録』、松本彦七郎書簡、長谷部言人書簡、山内清男書簡、杉山寿栄男書簡など

アクセス方法

〒986-0032
宮城県石巻市開成 1-8 (マルホンまきあーとテラス内)

■ 公共交通をご利用の場合

石巻駅 → マルホンまきあーとテラス

タクシー 石巻駅前タクシー乗り場から乗車で約10分

路線バス 石巻駅前3番乗り場から石巻専修大学線に乗車で13分
総合運動公園(石巻)下車徒歩約2分

■ お車でお越しの場合

三陸自動車道 石巻女川 IC より約5分 駐車場無料

参加無料

特別展関連イベント

ここに注目! 「発掘された日本列島 2022」

in 石巻市博物館

講演① 特別展「発掘された日本列島 2022」の見所解説
齊藤慶史(文化庁文化財第二課埋蔵文化財部門 文化財調査官)

講演② 毛利・遠藤の考古コレクションの形成について
泉田邦彦(石巻市博物館 学芸員)

日 時: 令和4年9月19日(月・祝) 午後1時~3時

会 場: マルホンまきあーとテラス 小ホール

定 員: 先着 150人(申込不要)

